

アイヌ民族文化研究センターだより NO.38

2013年 3月

- ・山田秀三文庫の資料から 根室市の春国岱……………1
- ・企画展「アイヌ語地名を歩く」
「2013・冬 網走／オホーツク」「2013 根室」……………2
- ・平成 25 年度から公開する資料について……………3
- ・研究課題から アイヌ民族に伝わる漆器……………4
- ・寄贈を受けた資料……………6 ・お知らせ……………8

〔企画展(共催)〕

アイヌ語地名を歩く

—山田秀三の地名研究から—

25年度は根室市で開催します！

2013年6月29日(土)～8月4日(日)

根室市図書館

詳しくは2ページ及び8ページをご覧ください。

山田秀三文庫の資料から 根室市の春国岱 (YF0417)

「春国岱」と書いて、「しゅんくにたい」と読みます。——アイヌ語地名に関心を持つ方であれば、ここまでで「なるほど、そういう地名なんだ」と、おおよその察しが付くのではないのでしょうか。



①②は、アイヌ語地名研究者・山田秀三氏が、1961（昭和 36）年に根室地方の地名を調査した記録の中にある、根室市春国岱の写真です。

③は、このときの調査で山田氏が描いた、根室半島の地図です。二重丸で囲ったところが根室の市街地で、「春国岱」の文字の下、島のようにになっているところが春国岱です。

①②は古いモノクロ写真なので土地のようすがわかりにくいかもしれませんが、②では上のほうの森が春国岱です。③の地図で、太線の矢印のある辺りから撮影したものです。

①でも、上のほう、少し遠くに見える広い森が春国岱です。③の地図で二重線の矢印の辺りから撮影したものです。



山田氏の研究などによれば、春国岱は「スunk・ニタイ」(sunk・nitay = エゾマツ・林) に由来するとされています。

実際、ここには広大な森林が広がっており、アカエゾマツ、トドマツなどの植生が見られます。現在では、根室半島を走る国道 44 号線（③の地図にも線が書き入れられています）の、ちょうど春国岱の南のところに「道の駅」が設けられていて、ここから見る春国岱の景色は見事です。

「スunk」（エゾマツ）に関する地名は他にもあります。

比較的有名なところでは、知床半島にある、斜里町・ウトロに近い「オシンコシンの滝」の「オシンコシン」もその例です。

山田氏によれば、この滝の近くに「オ・スunk・ウシ」(o・sunk・us・i = 川尻 (に)・エゾマツ・群生する・もの (所)) に由来する地名があり、それが少し訛って滝の名としても呼ばれるようになったのではないか、とされています。

〔企画展〕

「アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013・冬 網走／オホーツク」開催

当研究センター所蔵「山田秀三^{ひでぞう}文庫」の資料を紹介する「アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013・冬 網走／オホーツク」を、北海道立北方民族博物館との共催により、2月2日より同博物館で開催しました（4月7日まで）。

会期中は多数ご来場いただき、またアンケートにもご協力いただき、ありがとうございました。



企画展会場のようす



また、企画展の関連事業として、右のような講座や講演会を開催しました。

講座には 24 名、講演会①には 57 名、講演会②には 47 名の参加をいただきました。

●展示解説講座「山田秀三氏のアイヌ語地名調査について」

2月2日（土）16：30～17：30

講師：古原敏弘・小川正人（当研究センター職員）



●講演会①「アイヌ文化と「環境」」

2月9日（土）13：30～15：30

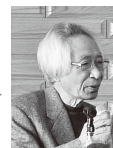
講師：本田優子氏（札幌大学教授）



●講演会②「アイヌ語地名研究と山田秀三」

2月16日（土）13：30～15：30

講師：伊藤せいち氏（アイヌ語地名研究会／北海道立北方民族博物館研究協力員）



〔企画展〕

「アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013 根室」を開催します

平成 25 年度の企画展「アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013 根室」を、根室市教育委員会と当センターの主催で開催します。また、会期中には企画展関連事業として講座や講演会も開催する予定です。詳細は追って当センターのホームページに掲載し、順次情報を追加・更新していきます。

多くのご来場をお待ちしております。

会 場：根室市図書館（根室市弥生町 2-5）

※入場無料です

期 間：2013 年 6 月 29 日（土）～8 月 4 日（日）

休館日：月曜日（祝日は開館）、7 月 16 日（火）、月末日



平成 25 年度から公開する資料について

平成 25 年 4 月から公開する資料についてお知らせします。

(今回までに公開した資料の一覧は、次号の「センターだより」に掲載します)

■ 研究センター所蔵資料の公開

◆ 研究センター 音声資料

当研究センターの職員が各地の伝承者・体験者等から採録した資料です。今回は、平取町で採録した資料 9 点を新たに公開します。

◆ 久保寺逸彦文庫 音声資料

主にアイヌ口承文芸やアイヌ民俗調査の資料から公開を進めています。今回は、門別町（現・日高町）で採録された口承文芸の資料など 5 点を新たに公開します。

◆ 久保寺逸彦文庫 文書資料

平成 25 年度から順次公開を開始します。久保寺逸彦文庫の文書資料のうち、ノート類の多くは既に道立図書館においてマイクロフィルムが公開されているので、当研究センターではそれ以外のものから公開を開始します。今回は、久保寺氏によるアイヌ語の語彙カードなどを新たに公開します。

◆ 山田秀三文庫 文書資料

地名調査の記録ファイルなど、6 点を新たに公開します。

◆ 山田秀三文庫 映像資料

山田秀三文庫の音声・映像資料は、地名調査・アイヌ文化関係のものはおおよそ公開できたので、平成 25 年度からは、それら以外の資料の公開を進めます。今回は、山田氏が内閣資源局につとめていた 1935（昭和 10）年の欧米視察の際に撮影した録画フィルムを公開します。

■ 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備

昨年度から整備を進めてきた「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」事業により構築した、以下の資料検索システムなどを、当研究センターホームページ内に開設します。

◆ アイヌ語音声資料の検索

当研究センターで公開している音声資料のほか、道立図書館、開拓記念館が所蔵するアイヌ語・アイヌ文化の採録音声資料約 1500 点を、インターネット上で一元的に検索できるシステムを、平成 25 年春から開設します（開設時期は、5～6 月を予定しています）。

◆ 音声資料の視聴

インターネット上での公開について承諾を得た資料については、上記のシステムを通して音声を聞くことができます。また、原資料の外観（録音テープの箱書き、レコードのレーベル部分の書き込みなど）を撮影した写真も見ることができます。

◆ まずはアイヌ語を聞いてみよう！

～「アイヌ語入門」ページの開設～

アイヌ語やアイヌの口承文芸、アイヌの音楽などについて、当研究センターの「アイヌ文化紹介小冊子」の内容をインターネット上での閲覧向けに編集した「アイヌ語入門」のページを開設しました。ここでは、「アイヌ語の単語を聞いてみよう」「短い口承文芸に挑戦！」「歌や楽器の音を聞こう」といったページで、実際に音声を聞きながらアイヌ語に触れることができます。

※ **公開開始時期について** 平成 25 年 4 月から公開を開始する予定です。ただし、一部は 7 月頃からの公開開始になるものがあります。詳しくは当研究センターまでお問い合わせください。

※ **利用について** 研究センターの閲覧コーナーで閲覧・視聴できます。音声資料はコンピューターで、映像資料は複製 DVD で視聴できます。写真資料・文書資料も複製（プリンターからの紙焼き）で閲覧していただいています。音声資料は「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」によりインターネット上でも検索が可能で、一部の資料については音声を聞くこともできます。

なお、資料の複写サービスは行っていません。

研究課題から

アイヌ民族に伝わる漆器

アイヌの民具といわれるものの中には、衣服やイクパスイ *iku pasuy* (捧酒箸) といったアイヌ自らが作る道具と、ガラス玉や漆器といった本州から移入したものが含まれています。中でも漆器は、椀などの食器として日常的に用いるほか、儀礼ではイナウ *inaw* (木幣) などと並び重要な道具として各種のものを用います。アイヌは自ら漆器を作りませんでしたので、それらの道具はすべて本州からの移入品です。漆器は実用の道具としても用いたほか家宝としても、家の中には家宝の漆器を置く場所を設けるなどしています。

北海道内の博物館等には多くのアイヌ民族の民具資料が所蔵されています。それらの多くは1960年代に北海道開拓百年などの記念事業に伴って建設された郷土館などの施設に収集された資料です。それらには収集年、収集地や使用年代といった情報はもとより、その地域でのアイヌ語名称、用途や使用方法などの基本的な情報が記録されていないなど、研究対象とするにはあまりにも情報が少ない資料が多く、歴史的、地域的な差異などの研究は進んでいません。中でも、漆器は本州からの移入品であるため、「アイヌの漆器」「アイヌの宝物」などとして一括りにされ、その内容について検討されることは、あまりありませんでした。^(注1)

* * * *

漆器の名称も、アイヌ語の名称の多くは用途から名づけられたものです。同一用途であれば異なる器形であっても、名称が同じということもあります。例えば、儀式の際に盃に酒を注ぐ道具として「エチウシ *ecius*」という名称で用いられる道具には、「片口^{かたぐち}」(写真①)「湯桶^{ゆとう}」「椀^{はん}」などがあります。逆の場合もあり、椀は食器として用いると「イタンキ *itanki*」、杯(盃)として用いると「トゥキ *tuki*」と呼ばれるなど、用途が違えば同種の漆器でも名称が異なります。また、器形によって名称が付くものもあり、「盥^{たらい}」は日本語名称と同じように把手の形状によって名称が異なります。小さな板状のものが付いた耳盥は「キサルシパッチ *kisar us patci*」「トコムシパッチ *tokom us patci* (写真②)」、4本の棒状の把手が突き出た「角盥」は「キラウシパッチ *kira us patci*」と把手の形状の違いが名称になっています。食籠^{じきろう}は「プタウンパッチ *puta un patci* (写真③)」、鉢は「パッチ *patci*」と盥と鉢には「パッチ」という名がついてい



ます。おそらく同じ用途に用いたためとも思われます。

博物館などの名称表示もアイヌ語名称であったり日本語名称であったりし、統一されているわけではありません。そのため資料目録の名称だけでは、器形が判断できないものが多くあります。アイヌ民具としては特殊な漆器、例えば「隅赤^{すみあか}」などは「箱」と表記されることが多く、漆器であるかどうか判断が付かないこともあります。

* * * *

アイヌの漆器の多くは本州からの古道具を持ち込んだものといわれていますが、中には、天目台と椀のセット(写真④)のように本州での漆器の用途と異なる組み合わせのものや、クマ^(注2)を描いたものなどアイヌ向けに作られたと思われるものもあります。さらに、アイヌの木彫作品に漆を塗ったものなどもあります。例えば、アイヌの代表的な民具として知られるイクパスイの中には、本州で製作されたと考えられる、文様を施した扁平なつくりのものがあり、アイヌ向けの商品として作られたと考えられます。また、アイヌが文様を施したものに漆が塗られているなど、一方的な交易品と考えられないものもあります。



(写真①～④：新ひだか町静内郷土館蔵)

* * * * *

これまで「アイヌの漆器」として一括りにされてきたものについて様々な特徴があることがわかりつつあります。ところが、古くから交易品として知られており、現在も多数残る漆器について、道内にどのような漆器がどのくらい残っているのか。また、それらは、いつ、どこで作られ、どの様なルートでアイヌにもたらされたのか、といったことは、ほとんど解明されていません。

そこで、道内の博物館等が所蔵する漆器や漆塗りの資料について調査を行い、道内に所在するアイヌの漆器類の全容を明らかにするとともに、流通経路や生産地の解明につながる基礎的なデータの集積を図ることを目的として調査を行いました。

自製品と違い漆器のような比較的規格性の高い資料は、多くのデータから形式化することで新たな資料像を見出す可能性があると考えたこと、それによって得られる新情報がアイヌ文化の歴史や様相を明らかにする一つの方法と考えたからです。

調査は、道内の博物館等の資料目録などから、漆器

と思われるものを抽出し、その中から、資料の収集過程によって、地元の寄贈資料を中心としたもの、研究者やコレクターの収集資料を中心としたものとの二つに大きく分けて調査対象を選びました。地元の寄贈資料は、その地域で長く伝世された資料を主としており、その地域に伝わった漆器の種類が想定できると考えたこと。一方、研究者やコレクターの収集資料には多様なものが含まれている可能性がある、と考えたことからです。

また、数が多いため、「椀」と「天目台」を主として、器形・塗り（色・技法）・加飾内容（文様・技法）サイズ・刻印（所有印）の有無・破損（補修）状況についてデータ化するとともに写真撮影を行いました。その結果、約 2000 点ほどの資料についてデータを収集することができました。

細かなデータは分析中ですが、当初の目的であったアイヌの漆器としての基本的な特徴を明らかにし、今後の歴史的、地域的な比較研究に用いる基礎的なデータの蓄積はできたと考えています。

また、この調査で、一部ではありますが北陸、東北の漆器生産地でも調査を行いました。類似した資料の所在は確認できず、アイヌの漆器とされるものの多くは北海道向けに生産された可能性が高いことも確認しました。

なお、この研究の成果は 2013 年度中に報告する予定です。

(研究主幹 古原 敏弘)

この研究の 2010・2011 年度は、神奈川大学常民文化研究所奨励研究「アイヌ民族に伝わる漆器の調査研究—アイヌ民具としての漆器類の基礎的なデータの収集と分析—」として、藪中剛司（新ひだか町教育委員会）、小野哲也（標津町教育委員会）、清水香（慶応大学埋蔵文化財調査室）と共同で調査を行いました。

謝辞

千歳市埋蔵文化財センター、旭川市立博物館、苫小牧市立博物館、函館市立博物館、釧路市立博物館、北海道立北方民族博物館、斜里町立知床博物館、帯広 100 年記念館、石川県輪島漆芸美術館、浄法寺歴史民俗資料館、秋田県漆器工業協同組合他、多くの皆様にお世話になりました。記して感謝申し上げます。

注 1) 現在、北海道内の博物館の資料目録などから確認できるアイヌの民具は約 25,000 点以上あり、そのうち約 3,500 点は漆器であると推測されます。

注 2) 描かれているクマはツキノワグマと思われます。

寄贈を受けた資料 (2012年9月～2013年2月)

発行者名の50音順に資料名を掲載しています。資料を寄贈していただいた方々・機関にお礼を申し上げます。

愛知県公文書館

・愛知県公文書館だより 第17号

アイヌ語地名研究会

・インターネットで見る蝦夷地の古地図

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

・財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構助成事業案内 平成25年度版

・アイヌ関連総合研究等助成事業 研究報告 第12号

阿寒湖温泉アイヌ文化推進実行委員会

・遙かなる森と湖の軌跡 阿寒アイヌ文化遺産

旭川市博物科学館

・旭川市博物科学館研究報告 第4号

あつけし

・あつけし No.618

伊藤公平

・伊藤公平 詩文集 あんず花咲く

遼星北斗研究会

・遼星北斗年譜

アイヌ刺しゅう同好会 イランカラブテの会

・エイワンケ ヤ? アイヌ文様刺しゅう作品集

岩崎奈緒子

・「赤蝦夷風説考」の研究

内田祐一

・十勝内陸部におけるアイヌの川漁 ―十勝川水系での漁期スケジュールと漁法について〔論文抜刷〕

株式会社 AIRDO 営業本部営業部

・ラボラ 2013 1月号 No.104

遠軽町教育委員会

・湧別アイヌ熊祭りの歌 No.1、No.2

大分県立歴史博物館

・おおいた歴博 No.35～No.38

・大分県立歴史博物館年報 2011

市立小樽文学館

・北斗帖

帯広叢書刊行会

・虻田第二尋常小学校同窓会資料 5

オホーツク・テロワール

・HARU Vol.2

学習院大学史料館

・学習院大学史料館 ミュージアム・レター No.20、No.21

神奈川大学日本常民文化研究所

・民具マンスリー 第45巻第4号～第45巻第10号

・2012年度 神奈川大学 日本常民文化研究所

九州歴史資料館

・九歴だより No.36

NPO 法人 元気の丘

・元気の丘「アイヌ木彫匠館」ご案内

・しばれ雪描く

高知県牧野記念財団

・高知県立牧野植物園だより No.51、No.52

神戸市立博物館

・博物館だより No.102

國學院大學北海道短期大学コミュニティカレッジセンター

・アイヌ史新聞年表 『小樽新聞』総集編

国立民族学博物館

・月刊みんぱく 第36巻第9号～第36巻第12号、第37巻第1号、第2号

・民博通信 No.138、No.139

・国立民族学博物館研究報告 第37巻第1号、第37巻第2号

・MINPAKU Anthropology Newsletter No.35

札幌アイヌ文化協会

・アシリ チェップ ノミ 30年のあゆみ

(財)札幌市芸術文化財団 教育文化会館事業課

・札幌市教育文化会館情報誌 「らく」 30

札幌市文化資料室

・文化資料室ニュース 第18号

佐藤知己

・アイヌ語の現状と復興〔論文抜刷〕

沙流川歴史館

・平成24年度特別展 二風谷遺跡群出土のアイヌ資料

・沙流川歴史館だより No.46、No.47

滋賀大学経済学部附属史料館

・博物館相当施設指定60周年記念 平成24年度企画展 資料館で近江商人たちと出会う

四国地区大学人権教育研究協議会事務局

・りべらちお 四国地区大学人権教育研究協議会 機関紙 第26号

標茶町郷土館

・標茶町郷土館報告 第24号

・郷土館だより 第29号

市民外交センター

・市民外交センター 年次報告書 2011年

斜里町立知床博物館

・野外図鑑 オホーツク海岸の石

・知床博物館研究報告 第34集

白井日記をひもとく会

・アイヌの慈父 白井柳治郎年譜 及虻田町(現洞爺湖町)略年表

世界人権問題研究センター

・GLOBE No.71、No.72

・人権問題研究叢書7 歴史のなかの女性の人権

先住民族の10年市民連絡会

・先住民族の10年 News 第187号～第191号

高倉新一郎著作集刊行会

・青嵐に昇華す 高倉新一郎追悼集

田中忠三郎

・物には心がある。消えゆく生活道具と作り手の思いに魅せられた人生

知多市歴史民俗博物館

・知多市歴史民俗博物館年報 第13号(平成23年度)

千歳市総務部総務課

・『新千歳市史』機関誌 志古津 第16号

千葉大学ユーラシア言語文化論講座

・千葉大学ユーラシア言語文化論集 第14号

知里真志保

・知里真志保の「アイヌ文学」

津田命子

・第一回 フチの手仕事タラ・背負い紐を作る〔VHS〕

天理大学附属天理参考館

・資料案内利シーズ No.30 台湾平埔族、生活文化の記録

・天理参考館報 第25号

東京外国語大学語学研究所

・語学教育所論集 第17号

東京都歴史文化財団、東京都江戸東京博物館

・江戸東京博物館 NEWS Vol.79、Vol.80

東北芸術工科大学東北文化研究センター

・東北学 01

東北大学東北アジア研究センター

・東北大学東北アジア研究センターニュースレター CNEAS 第54号、第55号

・東北アジア研究センター叢書 第48号 『保安語詞彙』蒙古文語索引

苫小牧郷土文化研究会

・平成23年度 年報

苫小牧駒澤大学環太平洋・アイヌ文化研究所

・環太平洋・アイヌ文化研究 第10号

鳥居龍蔵記念博物館パワーアップ事業実行委員会

・鳥居龍蔵とアイヌ ―北方へのまなざし―

・平成24年度長野県立歴史館・松本市立博物館連携企画 縄文土器展

・長野県立歴史館だより Vol.72～Vol.74

日本航空株式会社

・スカイワード 第53巻第2号 通巻614号

日本マキリ研究学会

・マキリ間切イクパスイ ～マキリ研究会通信 2012～

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 研究資源共有化事業委員会

- ・研究資源共有化システムニューズレター 第5号

根室市歴史と自然の資料館

- ・くるまいし 根室市歴史と自然の資料館だより No.27
- ・根室市自然と歴史の資料館紀要 第24号

株式会社ノームスーン

- ・warafuku [わらふく] Vol.22

函館市文化・スポーツ振興財団 (函館市北方民族博物館)

- ・函館市北方民族資料館講座 ミュージアム・トーク アイヌの家づくり

- ・チセ 模型と絵でみるアイヌの住まい

函館ハリストス正教会

- ・函館ハリストス正教会史

反差別国際運動日本委員会

- ・IMADR-JC 通信 No.171、No.172

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 資料室

- ・阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 資料室 ニュース Vol.49

ビッグイシュー日本

- ・ビッグイシュー 日本版 第205号

hinami 編集部

- ・hinami [ひなみ] 2012年11月号

美幌町郷土史研究会 (美幌博物館)

- ・不思議なトンボの世界
- ・特別展 アイヌ民族資料展展示図録

別海町郷土資料館

- ・別海町郷土資料館だより No.153 ~ No.158

星の降る里百年記念館

- ・星の降る里百年記念館 年報 Vol.19 平成23年度版

北海学園大学学術研究会

- ・北海学園大学 学園論集 第152号~第154号

北海道開拓記念館

- ・北海道開拓記念館だより Vol.42 No.3、No.4 (通巻217、218号)

北海道開発協会

- ・開発こうほう No.592

北海道教育委員会

- ・平成23年度アイヌ民俗文化財調査報告書 アイヌ民俗調査4 紡織等衣類に関する民俗技術
- ・アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズ40 金成マツ筆録アイヌ英雄叙事詩 コタンラびとに腹を踏まれた姫が物語る
- ・アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズ41 金成マツ筆録アイヌ英雄叙事詩 「シノッチャ みだらごとにふける女の歌」 「オランナイの曲」 「千里眼の鑑」
- ・アイヌ民俗文化財ユーカラシリーズ42 金成マツ筆録アイヌ英雄叙事詩 コタンラウングルがフレウケウグルに化ける曲

北海道ジェイ・アール・エージェンシー

- ・The JR Hokkaido No.295 ~ No.300

北海道新聞社販売局

- ・道新ポケットブック 北海道遺産ガイド

北海道大学総合博物館

- ・北海道大学総合博物館ニュース 第25号、第26号

北海道・東北史研究会

- ・北海道・東北史研究会会報 2012年第1号

北海道ドライブ観光コンソーシアム

- ・Byway Vol.10

北海道文化財保護協会

- ・文化情報 第333号~第336号
- ・北海道の文化 vol.85

北海道埋蔵文化財センター

- ・千歳市 祝梅川小野遺跡(2) 梅川1遺跡(2) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 297
- ・長沼町南六号川左岸遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 298
- ・斜里町 斜里朱円周堤墓 重要遺跡確認調査報告書 第8集

北海道立衛生研究所

- ・北海道立衛生研究所報 No.62

北海道立総合研究機構 環境・地質研究本文 地質研究所

- ・北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 地質研究所 年報 平成23年度

北海道立北方民族博物館

- ・北方民族博物館だより No.86、No.87

北海道立文書館

- ・赤れんが 北海道立文書館報 No.48

北海道歴史研究者協議会

- ・道歴研年報 第13号

本別町

- ・追補 本別町史 第二巻

的場光昭

- ・アイヌ先住民族、その不都合な真実 20

宮夫靖夫

- ・日高・胆振地方を主体とする 新聞に見るアイヌ民族の足跡

宮崎県総合博物館

- ・平成24年度特別展 宮崎の土人形 佐土原人形の世界 展示図録

- ・森の通信 第53号

盛岡市先人記念館

- ・盛岡市先人記念館だより No.49

森竹竹市研究会

- ・森竹竹市遺稿集『評論』

ヤイユカラの森

- ・Yay yukar park 75、76

山本融定

- ・好日日記 その1

結城庄司研究会

- ・北海道アイヌ(ウタリ)協会史 研究2ノート

吉原秀喜

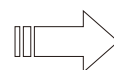
- ・アイヌ民族・文化とクマ〔雑誌掲載論文コピー〕
- ・アイヌ民族の祈りと文化景観・環境〔論文コピー〕
- ・鳥居龍蔵千島調査の歴史的位置と意義 ―アイヌ民族・文化の現況をふまえた一考察―〔論文コピー〕
- ・[研究ノート] マンロー関係資料研究・活用上の地域的諸課題 ―北海道平取地域におけるアイヌ文化継承の現状に即して―〔論文コピー〕

和合会

- ・八重垣 第39号

(外国語図書など)

- ・ОРНАМЕНТАЛЪНОЕ ИСКУССТВО ЯКУТОВ (DIE ORNAMENTIK DER JAKUTEN)
- ・The Fourth International Symposium on Traditional Polyphony
- ・The Fifth International Symposium on Traditional Polyphony
- ・The Fifth International Symposium on Traditional Polyphony (Audio & Video Examples of the Papers)
- ・世界民族[SHIJIE MINZU] 2011年第1期、第2期、第5期、第6期、2012年第1期~第6期



センターのホームページでは、寄贈を受けた資料のほか、購入した資料などについてもお知らせしています。

行事など

3月までに、次の行事がありました。どの行事にもたいへん多くの方々にご来場いただき、ありがとうございました。

詳細は、当研究センターのホームページでも紹介しています。

■企画展「アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013・冬 網走／オホーツク」

2ページでもお知らせしたとおり、2月から網走市で企画展を開催しました。詳しくは本紙2ページおよび当研究センターのホームページをご覧ください。

平成25年度には、次の行事を開催します。

■平成25年度企画展「アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013 根室」

根室市で企画展「アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013 根室」を開催します。

会場：根室市図書館（根室市弥生町）

期間：6月29日（土）～8月4日（日）

本誌2ページも併せてご覧ください。

センターの刊行物

平成25年3月までに、この『センターだより』38号のほか、次の刊行物を発行しました。

●企画展展示解説パンフレット

『アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013・冬 網走／オホーツク』

- ・会期中の会場で、先着順に無料で配布しています。
- ・会期後は、研究センター閲覧コーナーで残部を配布します。

●『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』19号

（以下は表題と執筆者名です）

〔論文〕「アイヌ語千歳方言における siran の用法」 佐藤知己

〔研究ノート〕「アイヌ口承文芸にみる樹木神（ヤナギの神）の伝承について」 安田千夏

〔資料紹介〕「市立函館博物館所蔵「椎久コレクション」―八雲アイヌの民族資料とアイヌ語音声―」

大矢京右・大野徹人

〔資料紹介〕「アイヌ文献目録2000～2009」 アイヌ文献目録委員会

- ・『研究紀要』は北海道行政情報センター（道庁別館3F／011-231-4111 内線22-389または011-241-7979）で有償頒布しています。

- ・『研究紀要』掲載の論文等のうち一部は、発行後1年経過したものから

順に当センターのホームページにPDFで掲載する予定です。これまでの『研究紀要』からも順次PDF化し掲載しています。どうぞご利用ください。

●『センターだより』は、当センターのホームページでもご覧いただけます。

平成24年度後半の動き

■行事・研修等

- ・国立民族学博物館共同研究会（10月、1月／大阪府吹田市 参加：小川）
- ・アイヌ民具資料調査・講演会「村岡コレクション落部アイヌ民族資料について」（11月／松前町 講師：古原）
- ・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（11月／広島県 参加：小川）
- ・開拓記念館歴史講座（11月／札幌市 講師：小川）
- ・国文学研究資料館共同研究会（12月／東京都 参加：小川）
- ・平成24年度アイヌ民俗文化財専門職員等研修会（2月／札幌市 講師：甲地）

■人事短信

- ・3月31日付（定年退職）
研究主幹 古原 敏弘

アイヌ民族文化研究センターだより No.38

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

2013年3月29日

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地 緑苑ビル1F
（北海道庁緑苑ビル庁舎）

電話 011-272-8801（代） FAX 011-272-8850

月～金／9：00～17：00（土・日・祝日・年末年始／休）

URL <http://ainu-center.pref.hokkaido.jp>

Email hacrc.1@pref.hokkaido.lg.jp

この広報紙は、環境に配慮した再生紙を使用しています。